

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500767
法人名	有限会社 オアシス
事業所名	グループホームぽかぽか
所在地	愛媛県伊予郡砥部町高市1318番地
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に残された力を見出し、一人ひとりが役割を持って生活できるように支援している。日々の生活の中で、畑で野菜の栽培、草引き、収穫、調理の下ごしらえ、配膳、片付けまで利用者に出ることを手伝っていただいている。地域の行事に積極的に参加し、地域の一員として生活できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然の環境に恵まれた地域の中にあり、家族的な雰囲気の中で利用者は日々を過ごしている。ホーム長が地元出身なので、地域の情報を把握しており、地域行事に積極的に参加している。近くに小学校があり、利用者も小学生達との交流を楽しみにしている。食事は旬の野菜を中心に献立を作成し、調理師免許を持つ職員が栄養バランスにも気を付けて調理している。11月から協力医療機関の医師が代わったことで24時間医療対応が可能となり、利用者や家族に安心感が得られている。事業所では外出の機会を多く作り、法人内他事業所で盛大に催される餅つき大会に参加するなど、楽しみとともに新たな馴染みの関係ができていく。職員は熱心に研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームぽかぽか

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

大平 真里子

評価完了日

平成 28 年 10 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念をリビングの見えやすい場所に掲示している。ミーティングの際にホーム長が職員へ理念について確認することで職員が再確認し実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初時の理念を大切に継承している。理念は事業所内に掲示して誰でも見ることができるため、管理者、職員共に常に意識して利用者の日々の生活を支えている。ミーティング等で話し合いを行い、ケアの内容が理念に適ったものになっているか振り返っている。新入職員にも理念を伝え、共有して実践につながるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭りや小学校の運動会などの行事に参加している。日頃から散歩することで顔見知りになっている。6月5日には地域の合同避難訓練に参加した。</p> <p>(外部評価) ホーム長が地元出身なので地域の情報を得ることができ、地域行事には積極的に参加している。畑にいる時や散歩時には近所の方と挨拶を交わし、野菜を持ってきてくれるなど親密な関係ができている。近くの小学校と交流があり、体験学習等で来てくれると利用者に笑顔がみられる。またボランティアが演奏や演劇を披露し、事業所行事の盛りあげに貢献している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の際に認知症についてテーマとして一緒に考える機会を作っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の活動状況を伝えると共に、出席者からの意見も聞くようにしている。ホームに対しての意見や要望はあまり出ていない。看取りをテーマに開催した際には、実際に自宅で看取りを経験された方からの体験談を聞くことが出来た。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、砥部町職員、老人会長、介護相談員等の参加を得て開催している。会議では内容として事業所の活動状況報告や勉強会、意見交換等を行っている。行事と一緒に開催する時は、同法人の事業所と合同で行うことが多く、参加者も多い。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席していただいている。地域包括主催の研修などにも参加するようにしている。	
			(外部評価) 町担当課職員は運営推進会議に参加して意見をもらっているほか、空室ができた際、連絡相談をしている。地域包括支援センター等が開催する勉強会に参加して他事業所と交流している。また、地元出身の介護相談員が月1回訪問して利用者とは交流するとともに、運営推進会議に参加するなど協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わないというホームの方針で支援しているが、職員全員が正しく理解できるよう定期的な研修が必要だと感じる。	
			(外部評価) 身体拘束についてのマニュアルがあり、管理者、職員共に理解して拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の出入りも自由にできるようになっている。骨折して入院していた利用者に対して、安全のために家族の同意を得て一時的に4点柵を使用したケースはあるが、現在は拘束をしている利用者はいない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内研修のテーマとして取り上げて考える機会を設けている。声掛けの言葉遣い等、気になる職員へは直接注意したり、職員同士で話し合ったりしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域包括支援センターの研修に参加しているが、より多くの職員が研修に参加し学ぶ必要があると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ホーム側から説明するだけでなく、利用者やご家族の意向や疑問などをお聞きし、不安なく契約していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際にはご家族と外部者で意見交換している。ホームへのご意見や要望などは、面会に来られた際にお聞きするように心がけている。	
			(外部評価) 家族には訪問時に声をかけ、話をすることを心がけている。運営に関する意見より利用者に対しての要望が多く、職員で話し合っ希望に沿えるよう努めている。毎月管理者が写真入りで利用者の日々の暮らしぶりを書いた手紙を作成し、看護師や介護支援専門員がコメントを追記して家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングを行い職員からの意見を聞くようにしている。職員からは気づいたことや提案があれば管理者へ伝えられている。他の職員も含めて話し合うようにしている。 (外部評価) 職員から管理者には意見を言いやすい関係づくりができています。管理者で解決できないことは、管理者からホーム長に伝えている。利用者のケアについては、職員からの提案が多い。職員には研修への参加を呼びかけており、参加費補助制度があり、参加した職員は全職員に伝達している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人の勤務実績や勤務状況の把握に努めている。処遇改善加算を利用した賃金改善等、分かりやすく職員に提示するようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 資格取得、研修に参加しやすいようシフト調整している。研修案内の呼びかけや研修手当の補助を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同一法人の事業所と定期的に交流し、情報交換やサービスのヒントを得る機会としている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 話しやすい雰囲気づくりを心がけ、日常会話の中から本人の要望を少しずつくみとるようにしている。職員それぞれが得た情報を記録として残し、職員全員で共有できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の気持ちに寄り添うように努めている。入所前の様子 や入所後の要望を聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人とご家族それぞれとの会話から必要と思われる支援をケ アプランに取り入れるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日常生活の中で本人に希望を確認しながら支援している。こ れまでの経験から職員が学ぶことも多くあり、尊敬の気持ち で接することを心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には、日頃の様子を職員からご家族に報告し、ご家 族からも本人からの希望があれば教えていただくようにして いる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 地域で行われるイベントに参加したり、地区ごとの交流会な どに参加している。 (外部評価) 入居前の住所地で開催される地区交流会に地域包括支援セン ターから誘いがあり、参加して馴染みの人と交流ができるよ う支援している。かつての職場の知り合いが事業所の近所に 住んでいることが分かり、訪ねて来てくれたり、地域の行事 に参加することで、知人と出会う機会がある。また、同法人 の事業所との交流が頻回にあることで新たな馴染みの関係が できてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) みんなで同じ時間を過ごせるよう席の配置などにも気を付けている。職員が間に入ることで、利用者同士のトラブルを避けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も必要に応じて情報提供を行うようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや希望も入所時と変化していく場合がある。日頃の何気ない会話の中から思いを感じ取るようにしている。記録し職員で共有している。	
			(外部評価) 日々の何気ない会話の中から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。会話が困難な利用者には、表情や行動をよく観察することで推察することも多い。新たに得られた情報は記録に残す等して職員で共有し、ケアに活かしている。突然「たいこまんが食べたい。」と言う利用者の思いを家族に伝えたところ、手土産で持って来てくれて喜ばれたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ふと、何気ない会話の中で利用者が昔の話をされることがある。面会の時などにご家族に伝えて確認することもある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の状態観察に努めている。気が付いたことは記録に残すようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月モニタリングを行なっている。本人の変化と共に職員で話し合い、本人、家族の意向を反映したケアプランを作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望、職員の意見、日々の記録から情報を収集して、計画作成担当者が介護計画を作成している。職員は日々介護計画を意識して利用者のケアを行い、実践状況を記録している。1か月に1回モニタリングを行ってまとめ、介護計画の見直しに反映させている。介護計画は家族面会時に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の言動を中心に記録に残すようにしている。情報を共有し、ケアプランの見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 脳梗塞の後遺症がある利用者に対しては、本人や家族の希望でマッサージの訪問を利用している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホームの行事や外出行事の際に地域のボランティア団体の方に協力していただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 二週間ごとの往診医による診察を受けている。専門医が必要な場合は、ご家族の協力で受診している。	
			(外部評価) 今年11月より協力医療機関を変更している。町内にある医院で、地域医療に熱心に取り組む医師が月2回訪問診療を行って診療をしてくれるようになった。24時間医療体制を取って緊急時にも応じてもらえるため、利用者や家族、職員も安心感が得られている。また、入院病床があり、短期間の入院も可能になり、看護師資格を持つ職員が協力医と連携して支援にあたっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職員は日々の支援の中で気づきがあれば記録し、看護師に報告している。看護師はかかりつけ医と連携し必要な対応をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中も病院関係者や家族から情報を得ている。必要があればこちらからも情報提供を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) これまで事例がないが、今後必要になる為、看護師を中心に看取りの外部研修に参加している。運営推進会議のテーマにも取り上げ、ご家族にも考えていただく機会を設けた。職員には今後引き続き研修していく必要がある。	
			(外部評価) 事業所では看取りの指針を作成している。まだ看取りの経験はないが、運営推進会議で話し合いを行っている。現在入居している利用者や家族全員には看取りの希望を聞いてはいるが、要望はあると感じており、勉強会にも積極的に参加している。	利用者の年齢からも、終末期が近づき看取りを希望することが予想されるため、利用者や家族の希望を早くから把握して方針を決め個別の体制づくりが望まれる。職員の教育のために研修等に参加し、知識や技術を習得して看取りに備えることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署で行われる介護職員を対象とした救命講習に参加したり、ホーム内研修のテーマとして取り上げている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の合同災害訓練に参加し、消防団の方にも協力していただいて避難訓練を実施している。災害計画については見直しが必要。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。今年度地域合同の防災訓練に参加し、利用者も一緒に避難訓練を行った。地域の消防団に事業所を見てもらい、内部構造を把握してもらっている。地域との協力体制は確立できていないが、消防署には直接連絡できるようになっている。	昼夜を問わず災害時には地域との協力体制を築いておくことは大切なことであり、運営推進会議等で地域との協力について話し合いを行い、体制を確立しておくことを期待したい。また備蓄品について職員の意見も聞き見直しを行い、災害時に必要な物を確保しておくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬の気持ちで接するよう心がけている。言葉遣いや声かけのタイミングなどプライバシーには特に気を付けるようにしている。 (外部評価) トイレの誘導時には大きな声で言わないと聞こえない利用者が多いが、なるべく側で声をかけるようにしている。トイレはカーテンなので使用時はきちんと閉めるよう配慮している。入浴介助の同性希望者には希望に沿っている。日常生活の言葉かけにも気を付けており、利用者と職員の会話は自然で、穏やかな時間を過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 声掛けによっては、逆に職員を気遣われるようなことを言われることもあり、声かけの工夫が必要と思われる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活を送る上で、ある程度の日課は決まっている。利用者も時計を見ながら時間で行動される人もいる。利用者それぞれの様子を見て、本人の意思を確認するようにしている。入浴日などは、時間を気にして対応してしまうこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った衣類を選ぶことが出来るように衣類の入れ替えをしている。本人に選んでいただくことが出来ない場合もある。散髪や整髪などは、本人と話しながら希望を取り入れている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食材を取り入れるようにしている。下ごしらえの際に食材についての会話をしている。食事の配膳、食器洗い、片付けまで出来る方には協力してもらっている。誕生日には、手作りケーキでお祝いし喜んでいただいている。	
			(外部評価) 調理担当者が材料を見て献立を考えている。調理師の資格を持っている職員がおり、栄養バランスも考慮して季節の野菜をふんだんに使った献立が中心になっている。肉や魚はまとめて買って小分けして冷凍して使用している。利用者は野菜の下ごしらえや配膳、盛り付け、下膳、食器洗い、食器拭き等自分でできることを職員と一緒にしており、職員も利用者と一緒に和やかな雰囲気ですべて食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は個別に調整している。食事量、水分量を記録している。摂取量が少ない時には、食べられる物を提供し、摂取量が確保できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを声掛けしている。自宅では毎食後出来ていなかった利用者も、ホームで習慣として定着し、声かけなしで行えている方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表へ記録している。自尊心や羞恥心に配慮しながら清潔に過ごせるよう声掛けや介助を行なうようにしている。オムツやパットの使用量を確認し最適な方法を職員で検討するようにしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して声かけし、なるべくトイレで排泄できるよう支援しており、現在常時おむつを使用している利用者はいない。定期的に排便があるよう、水分摂取にも気を付けており、便秘傾向がある場合は医師の指示のもと看護師と相談して、快適に排便できるよう服薬調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表に記録し、必要に応じて医療と連携している。日頃から水分摂取や運動を心がけるようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決めている。入浴の順番は決めていない。その日の体調や気分により利用者に声かけるようにしている。入浴拒否の利用者に対する声かけは時間や職員を替えて様子を見るようにしている。拒否された場合の清潔保持については検討が必要と思われる。	
			(外部評価) 夏季は週3回、冬季は週2回入浴できるよう支援している。入浴日は午前中から入浴介助を行ない、順番は決めないで、利用者のその日の状態で声かけしている。入浴が苦手な利用者に対しては、声をかける職員を替えたり、時間をずらしたりして気持ちよく入ってもらえるよう支援している。冬は寒いので脱衣場を暖かくしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼間は個人で自由に居室やリビングで過ごしていただいている。夜間は睡眠状態を観察している。気持ちよく眠れるように寝具類の交換や声掛けを気を付けるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効能、副作用についてその都度情報を把握するようにしている。服薬の確認を徹底し、症状の変化等があれば記録に残し看護師に連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者が好んで行っていることや楽しみにしていることをより多く見つけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は近隣を散歩したり、月に1回程度は車で外出している。個別な要望にはご家族に協力していただいている。	
			(外部評価) 天気の良い日には近所を散歩したり、地域の行事にも参加している。車で出かけた利用も多く、外出の機会を多く作り、花見やつくし採り、外食、太鼓コンサート等に出かけている。伊予市にある同法人事業所と合同で行事をすることが多く、交流を深めている。畑で作業をしたり、収穫を手伝う利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設で金銭の管理はしていない。必要なものがあればご家族に頼んだり、ホームで立て替えて購入している。お金を持っていることで安心される利用者についてはご家族の了承を得て所持している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者からの電話は使用していない。遠方にいるご家族からの電話などは取り次ぐようにしている。利用者からご家族にお手紙を書かれる場合には、職員がお手伝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者と一緒に掃除を行なっている。トイレはいつも清潔に使用していただくために、使用後の確認を行い常に清潔を保持するよう努めている。壁面には季節ごとの飾りつけを行なっている。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関や居間には季節の花を飾り家庭的な雰囲気づくりがされている。居間はテーブルや椅子も工夫して置かれており、防寒対策もしている。壁には利用者手づくりの季節の飾りがされており、利用者も常に居間にいて職員と会話しながら穏やかに過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングの席は混乱しないよう配置を決めていはいるが、自由に座られている。利用者同士のトラブルが起らないように職員が配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた布団を持ち込まれたり、家族の写真やご自身で作られたクラフト作品などを飾られたりしている。</p> <p>(外部評価) 利用者の部屋には収納場所が備え付けられているが、それぞれ整理ダンスや椅子、テレビや使い慣れた布団等、自分のお気に入りの物を置いており、個性的な部屋づくりがされている。手づくりのカレンダーや作品、写真等が壁に飾られている。部屋の掃除は利用者ができることをして、月1回職員が丁寧に行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 車イスの利用者が自分で移動できるようスペースの確保をしている。リビングのカレンダーの変更は利用者の毎日の役割となっている。</p>	